



東京都小学校道徳教育研究会

令和8年6月19日

# 都小道研だより 第4号

～ 研究は厳しく、人間関係は温かく ～ 会長 星野典靖

## 1 はじめに

「令和8年度 東京都小学校道徳教育研究会 第64回定期総会並びに講演会（5月28日開催）」を終えて、本会の研究活動が本格的にスタートしました。

交通の便が良くない会場にもかかわらず、当日は100名近い皆様にご参会いただきました。また、場所を変えての懇親会も、50名が一堂に集い、道徳について語り合い、親睦を深めることができました。ご参会の皆様、お心を寄せてくださった全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

## 2 「日本道徳科教育学会」で学んだこと

6月6日（土）に、世田谷区立八幡山小学校（林田孝子校長）で開催された日本道徳科教育学会（吉本恒幸会長）に、都小道研会長として参加させていただきました。総会、講演会、シンポジウムの3部制で、大変充実した内容の学会でした。星野が印象に残った学びについて記します。

### (1) 吉本恒幸会長のご挨拶から

考え、議論する道徳の実装の「実装」は具体化・見える化という言葉に置き換えることができる。しかし、質を高める手立てが不十分である。また、「教材の学びと自己のふりかえりがつながらない」「SNSへの投稿の問題点を扱った生活指導のような授業」「道徳科のねらいや特質を踏まえていない授業」「特別支援を要する児童の実態に即していない指導」「全校で共通理解が図られていない情報発信」といった「実装」に値しない実践が散見されているの現状である。これらのことを踏まえてよりよい研究を進めていくことが大切であることを学んだ。

### (2) 戸上琢也先生（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター統括官、文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導調査官）のご講演から

「道徳教育と生徒指導」がテーマであった。「道徳で生徒指導ってどういうこと？道徳科の授業で『これが大切ですよ』と教師が指導したり、子供に決意表明をさせたりするの？」という問いに対して、「道徳科の時間でも、成長や発達を支える働きかけや、認め、励ます声掛け、子供同士が自らすすんで考えられるような仕掛けをすること」「道徳科だけではなく、道徳教育としても、あらゆる場面で成長を認め、励ます声掛けや、教師と子供、子供同士の良好な人間関係を生み出す働きかけをしていくこと」であると話されていた。

そして、「道徳教育と生徒指導はいずれも児童生徒の人格のよりよい発達を目指すものであり、学校教育活動全体を通じて行うという点で共通している。道徳教育で培われた道徳性を、生きる力として日常の生活場面に具現化できるよう支援することが生徒指導の大切な働きとなる」という生徒指導提要（改訂版）の内容を踏まえて、道徳教育と生徒指導を一体的に充実させることの大切さを学んだ。

### (3) シンポジウム（「次期学習指導要領に向けた道徳科の在り方を考える～道徳科に残されている課題を探る～」）から

まず、特別の教科道徳となった成果を確認し、そのあと登壇者からこれからの課題について発言があった。その内容を項目立てすると次のようなことだった。

- ・デジタル学習基盤の活用
- ・道徳科の評価（道徳性をどう見とるか）
- ・自己をふりかえる時間の確保
- ・教員個々の力量に差
- ・特別な配慮を要する児童への対応
- ・校長のリーダーシップ
- ・道徳科の目標・特質の理解
- ・特別支援学級（知的・情緒）の道徳科
- ・道徳教育推進教師の重要性
- ・道徳科の専門用語の理解
- ・別業を活用した道徳教育の充実

これらは、都小道研の研究推進はもちろんのこと、東京都の公立小学校における道徳教育・道徳科授業の充実のために向き合わなければならない課題であること学びました。都小道研の研究でも、これらの課題についても向き合い、「考え、議論」していきたいと思いました。